

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和4年11月20日

多摩市議会議員 しらた 満

多摩市議会議長 いいじま 文彦 殿

## 質問項目

- 1 ポストコロナ社会の健全財政と長期計画と公有財産
- 2 子どもの教育・支援環境の充実にむけて

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和4年11月20日	No.14
	午後4時12分	

## 項目別質問内容

1. ポストコロナ社会の健全財政と長期計画と公有財産
(1) 新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見通しが立たない現在の多摩市の財政について以下質問いたします。
① 多摩市の現在の負債・借金の金額、その返済見通しと計画。また新たな負債・借金の金額について伺います。
② パルテノン多摩・建設中の図書館・建て替え予定の庁舎のそれぞれの負債・借金の金額と返済期間について伺います。
③ 負債がある学校・廃校・土地の数と金額について伺います。
④ 敷地が限られた多摩第三小学校の建て替えについて地域説明が始まりましたが、市の考える議論のポイントと条件、建て替えまでの課題、今後の予定を伺います。
⑤ 多摩市立学校給食センターは、たいへん老朽化して度々故障や臭いの問題もあると思いますが、建て替え時期や建て替え時の防災機能の充実などと、新庁舎の防災機能の具体的な内容とその整合性や連携について伺います。
⑥ パルテノン多摩や多摩市立中央図書館を皮切りに、今後建て替えや改修・移転などが予定されている学校・社会教育関係施設や子育て関連施設の整備や充実について、都市整備の立場から人口推計や開発計画などを踏まえて、新庁舎建て替え完了予定までの年度ごとの整備計画の具体を伺います。
⑦ 少子高齢化が進む中、資産老朽化比率が63%であることから将来の市民生活を支えるために負債の軽減や行政コストの見直し削減などをどの様に考えているのか伺います。
2. 子どもの教育・支援環境の充実にむけて
(1) 多摩市で3番目に開校した私の母校・東愛宕中学校は、今年度創立50周年式典を行い、歴史ある多摩第一小学校が先日110周年記念式典を行いました。多摩市は、子ども家庭庁の設立を見据えて子ども若者を支援する条例を作りこれまで以上の教育施設や家庭支援の整備と充実を念頭においでいると思いますので、以下質問いたします。



# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和4年11月21日

多摩市議会議員 岩永ひさか

多摩市議会議長 いいじま 文彦 殿

## 質問項目

- 1 新型コロナワクチン接種に対する市の考え方について
- 2 不登校総合対策について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和4年11月21日	No.15
	午前8時41分	

## 項目別質問内容

<p>1 新型コロナワクチン接種に対する市の考え方について</p> <p>未知の病原体として、社会に大きく恐怖を与えた新型コロナウイルスも、現在は変異を繰り返しながら、弱毒化していると言われていています。対策に打つ手がないと言われながらも、海外と同様、日本でも、公衆衛生の観点から、感染予防対策としてワクチン接種が推奨されてきましたが、感染の収束という当初見込んだ感染予防の効果は表れていません。現況は、日本では約8割の国民がワクチンの1回目接種を終えており、2回、3回と接種の回数を重ね、今は、また、5回目の接種に入っていますが、感染拡大は繰り返され、現在、感染拡大の第8波に入りつつあると言われていています。</p>
<p>(1) 国民の6割以上が接種をすれば、感染拡大は予防できるという説明がされていたと記憶していますが、市長は現状をどう捉えておられるのでしょうか。</p> <p>また、「超過死亡」が話題になっており、コロナ以前2019年と比較した死亡者の増加が指摘されていますが、国の状況、多摩市の状況、それに対する市長の見解を伺います。</p>
<p>(2) コロナワクチンの接種は努力義務ですが、任意であり、決して強制されるものではありません。そのことを踏まえ、阿部市長も対応をされてきたと思いますが、今回、0歳から4歳の子どもに対する接種券については、ワクチンの安全性の確保、詳細な説明など、慎重な姿勢を示されていたにも関わらず、一律送付されました。「接種券申請方式」にしなかった理由を伺います。</p>
<p>(3) オミクロン株対応2価ワクチンについて、厚生労働省は「安全性は問題なし」としている一方で、人間での臨床実験（治験）のデータはないまま特例承認しています。現状、その事実を市民は知った上で接種の選択ができているのでしょうか。ワクチン接種事務は法定受託事務であり、市長として滞りなく事務を執行することが求められます。しかし、市民のいのちを守るという観点で、市民が自分にとってよりよい選択をするための情報提供は、市民との信頼関係を醸成していくうえで何よりも大切なことだと考えていますが、その点について、市長はどう考え、取り組んでおられるのか伺います。</p> <p>また、現在の重症化率を踏まえ、今後、どのように対応していく必要があるとお考えなのか伺います。</p>
<p>(4) ワクチン後遺症についても被害者の会が発足していますが、市民の状況について、後遺症をどのように考え、把握されているのでしょうか。</p>
<p>2 不登校総合対策について</p> <p>先日、発表された文部科学省の調査結果では不登校の児童・生徒数が過去最多となりました。多摩市の調査結果でも同様の傾向が表れており、学校に足が</p>

## 項目別質問内容

<p>向かなくなった子どもたちへの対応は優先すべき課題と捉えています。多摩市では2020年11月に「不登校総合対策」を公表し、今年4月には、「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」が施行されましたが、計画策定や条例制定が具体的にどのような取り組みや成果につながっているのでしょうか。現状について、伺います。</p>
<p>(1) 不登校傾向の見られる児童・生徒、あるいは、保健室登校等、文部科学省の調査では実数が把握されていない子どもたちの存在も含め、市教委は各学校における対応状況をどのように把握し、フォローしているのか伺います。</p>
<p>(2) 「不登校総合対策」において、学校の対応力向上のためには、子どもたちへの的確なアセスメントが必要とされています。その手法として心理検査「hyper—QU」に取り組んでいますが、現在までの実施状況と評価、課題について伺います。</p>
<p>(3) 「不登校総合対策」では、適応教室「ゆうかり教室」の役割にも着目し、機能発揮が期待されていると捉えています。現状について伺います。</p>
<p>(4) 昨年度、再考するとして、一旦立ち止まった「不登校特例校」について今後の方針、対応について伺います。</p>
<p>①開設の時期、開設の場所、規模、人員体制、カリキュラム等の再検討の状況について伺います。</p>
<p>②特例校開設に向けた費用や運営費の見込み、財政措置について伺います。</p>
<p>③小学生への対応方針、また、「学業不振」への対応や個別支援、早期支援の現状について伺います。</p>
<p>(5) 子どもをめぐる行政の縦割りの弊害を解消するため、来年4月より「子ども家庭庁」が発足します。「教育福祉」の観点で、子ども政策を一体的に捉える必要性は以前から指摘していますが、これを踏まえ、多摩市ではどのように考え、取り組んでいくのか伺います。</p>
<p><b>資料要求欄</b>（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）</p>
<p>①多摩市でコロナワクチン接種状況（接種回数別に）と感染者状況（年月別）</p>
<p>②コロナ前（2019年）とコロナ後（2021年）の死亡者数の比較、月別について国全体、多摩市全体の状況が把握できるもの</p>
<p>③0歳児から4歳児、小児接種（5歳から11歳）について接種券を一律送付していない自治体一覧。</p>
<p>④0歳児から4歳児、小児接種（5歳から11歳）に接種券送付するにあたり同封した市長メッセージ</p>
<p>⑤不登校出現率、不登校児童・生徒数最新状況。学年別。5か年。</p>
<p>⑥ゆうかり教室に通っている児童・生徒の実数。学年別。</p>
<p>⑦フリースクール等に通学し、「出席扱い」の児童・生徒の実人数</p>

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

2022年11月20日

多摩市議会議員 小林憲一

多摩市議会議長 いいじま 文彦 殿

## 質問項目

- 1 脳卒中（脳血管障害）の当事者のご家族への支援に、行政としてどうとりくむか？
- 2 児童館空白の地域での子育て支援の現状と今後の方向性を問う
- 3 水害時の避難方法の多様化をふまえ、一人ひとりの実情に適合した方策を立て、実行しよう

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和4年11月20日	No.16
	午後2時58分	

1. 脳卒中（脳血管障害）の当事者とご家族への支援に、行政としてどうとりくむか？

最近、地域で、また私自身の知り合いのなかでも、脳卒中に罹患し、その後起こる後遺症のリハビリに、懸命に取り組んでいる方を多く見受けるようになりました。私自身も、いまから19年半前の2003年6月に脳梗塞に罹患し、2週間の入院とその後のリハビリを経験しました。私は幸いにも、「ラクナ梗塞」という、梗塞した部分が極めて限定的で、その影響を受けた部分も狭い範囲でしたので、発声や身体麻痺も、リハビリの結果、半年ほどではほぼ正常に戻りました。しかし、それでも、罹患する以前のような速さではしゃべれない、「かきくけこ」「らりるれろ」が発音しにくいとか、麺類を食べるときの箸の使い方に苦労するとかの「後遺症」は残っています。

脳卒中の後遺症は、その梗塞または出血した部位やその範囲によって、その程度はきわめてさまざまですし、症状の重い方は、日常生活にもさまざまな支障を来し、なかでも現役世代の方は、仕事に復帰するために多くの努力を必要とします。また、当事者を支えるご家族など周囲の方のご努力も多大な苦勞をとまいます。

脳卒中当事者の方が増えているなかで、これらリハビリへの支援、経済的な支援を含む生活支援、そして精神的な支援など、行政による公的な支援の必要性が高まっているのではないかと考えます。

以上のことをふまえ、以下、行政による支援の現状をうかがうとともに、今後の方向性について、市長の見解を質します。

(1) 脳卒中の発症とその後遺症のリハビリに取り組んでいる市民の存在について、その現状をどう認識していますか。

(2) 当事者と、そのご家族等への多摩市の支援態勢は、どのようになっていますか。

① 「後遺症」の種別、たとえば「身体麻痺への支援」「言語障害への支援」「失語症への支援」などに分けて、お答えください。

② 身体の状態のみならず、「経済的支援を含む生活支援」については、どうなっていますか。

③ 前項に関して、現役世代の方への支援は、どうなっていますか。

(3) 脳卒中に罹患しないための予防策、また、いったん罹患した当事者が再発しないための予防策について、どのような支援、対応がとられていますか。

## 2. 児童館空白の地域での子育て支援の現状と今後の方向性を問う

現在、市内には、10館の児童館があり、それぞれが、特徴を持つとともに、一定のエリアを担当しています。ただし、児童館と距離的に離れているなどの理由で、子どもたちと保護者にとっては、十分に利用しにくい地域もあると思います。表現が適切かどうかはわかりませんが、これら「児童館空白」地域での、特に「地域子育て支援拠点」施設としての機能が十分に果たせていない地域における子育て・子育て支援の現状と今後の方向性について、以下、あらためて市長の見解を質します。

(1) 児童館10館の配置の現状についての所管の評価をうかがいます。そのなかで、「児童館空白」と認識している地域は、どこになるでしょうか。

(2) 「地域子育て支援拠点施設」としての児童館、その位置づけについて、うかがいます。児童館以外の「地域子育て支援拠点施設」についても、お答えください。

(3) 児童館も、児童館以外の「地域子育て支援拠点施設」も「空白」となっている地域での子育て・子育て支援策について、現状と今後の展望についてうかがいます。

(4) コミュニティとしての地域を考えた場合、そこで住民が協力し合って生活を営むときに、高齢者、現役世代、子育て世代、若者など、世代ごとのバランスが取れていることが望ましいと考えます。特に、災害時などには、このことがきわめて重要です。さまざまな世代が居住できる条件を整える役目が行政にはあると考えますが、この点についての見解をうかがいます。

## 3. 水害時の避難方法の多様化をふまえ、一人ひとりの実情に適合した方策を立て、実行しよう

水害時の避難方法については、この間、「密を避ける」などコロナ禍への対応、認識の発展などによって、一律に避難場所にいっせいに移動するというのではなく、多様な避難方法が提示されてきました。

これらの多様な避難方法をあらためて整理したうえで、個々の住民の置かれている状況に応じて、多様な方法を選べるようにすること、特別の支援が必要な方には、対応した支援をすること、これらの現在の課題をあらためて考えたいと思います。以下、市長の見解を質します。

(1)「自宅避難」、「縁故避難」、「早めの指定避難場所への避難」、「近くの堅牢な施設への垂直避難」など、多様な避難方法についての現在の到達点を整理してお答えください。

(2)聖蹟桜ヶ丘駅近くの民間ビルを利用した緊急避難場所の到達点と、その具体的な活用法について、あらためて整理してください。

(3)早めの避難を迅速にすすめるための手法について、たとえば、「周知・啓発の徹底」、「個人所有の車などを利用した誘い合っでの避難行動」、「高齢者・障がい者など『要配慮者』への対応」などについて、現在の到達点と、今後の展望について、お答えください。

**資料要求欄**（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

- ①質問1-(1)、(2)に関連して、脳卒中の後遺症のリハビリ等に取り組んでいる方たちに対して、市としておこなっている支援メニュー一覧。
- ②前項に関連して、当事者のご家族等への支援メニュー一覧。
- ③質問2に関連して、児童館と「地域子育て支援拠点施設」の担当地域一覧。
- ④質問3-(1)に関連して、水害時の多様な避難方法の一覧。
- ⑤質問3-(2)に関連して、その一覧表。

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和4年11月20日

多摩市議会議員 藤條 たかゆき

多摩市議会議長 いいじま 文彦 殿

## 質問項目

1 「安全で持続可能な市民の移動」について

## 答弁者

市長・教育長等

受付	令和 4年11月20日	No.17
	午後12時 5分	

## 項目別質問内容

1 「安全で持続可能な市民の移動」について
<p>新型コロナウイルス感染症も第8波到来かとも言われ、コロナとの付き合いも長期化してきている中、日常における恒常的な感染対策、デジタル化の急速な進展による働き方改革、オンライン消費の増加やそれらに伴う市民の移動も大きく変容してきました。</p> <p>また、世界的にも SDGs やカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現が国際社会の共通目標ともなり、少子高齢化が進む日本においても、コロナとの共存とともに社会全体で取り組んでいく必要があります。</p>
<p>このような社会情勢において、自転車はエコであり環境にも優しく、公共交通と比べても人との接触を低減する移動手段であるとともに、自らの健康増進や、地域を巡る散策等、生活をより豊かに楽しむことを目的とした利用も増え、ニューノーマルな生活の主演としても期待されており、コロナ前よりも「自転車を活用したまちづくり」が注目されています。</p> <p>同時に、自転車利用が増えることに伴う、自転車走行空間整備等の安全対策の推進や交通安全教育等、自転車が安心安全に利用できることへの重要性が高まっています。</p> <p>それらを促進するにあたり、自転車だけでなく、歩行者や車等、道路を共有する全ての利用者がお互いの目線を想像し思いやるマインドも必要となってくるでしょう。</p>
<p>今後、さらなるデジタル化の推進やモビリティの多様化、MaaSの進展なども見据えつつ「安全で持続可能な市民の移動」について一緒に考えて参りたいと思います。</p>
<p>(1) コロナ禍での移動制限はなくなって久しいが、長引いた不要不急の外出自粛要請などから、特に不安を覚える高齢者の方々を中心に、以前よりも外出の頻度が減り、運動不足などによる体力の低下、ロコモやフレイルなど健康二次被害につながっている恐れがあるが、市はこの現状をどう捉えて分析しているか伺う。</p>
<p>(2) 多摩市では、そうした健康二次被害を予防するため、市民に歩くことを推奨する「ウォークブル推進都市」を掲げているが、一部の市内公園で進められようとしている「駐車場有料化整備」などはこの流れに沿った施策であるのか、市の所感を伺う。</p>

## 項目別質問内容

<p>(3) 自家用車での移動から、徒歩や自転車へ乗り換えてもらうためには安全な通行空間や駐輪場の確保などの環境整備も必要と思うが、多摩市交通マスタープランの中でも掲げる「安全で快適な利用環境の創出」についての取り組みと進捗について伺う。また、市内で圧倒的に少ないシェアサイクルの現状についても合わせて伺う。</p>
<p>(4) 放置自転車対策事業においては、巡回回収の日時や返却時間の変更などから事業費の一定の圧縮が見られたが、他市に比べてもまだまだ高い水準である。</p> <p>放置自転車は駅前や周辺などに集中する特性もあることから、駐輪場委託事業者へ回収や返却の業務を担って頂くことも可能だと思うが、多摩市での実施については如何か。他市でそのような手法を採用している所を調査しているのか、その手法は多摩市での採用が可能か、また難しいとする場合はその理由も合わせて伺う。</p>
<p>(5) 多摩市には交通公園があり、子ども達へ交通安全のマナーについて啓発する場としても活用されているが、市内の自転車利用者でもイヤホンやスマホを操作しながら運転する若者や、信号無視や交差点以外で横断する高齢者なども散見される現状であることから、多世代に渡っての啓発の必要性も感じるところである。今後の出前交通マナー教室などの展開と、交通公園自体の活用方針について所感を伺う。</p>
<p>(6) 都心部では電動キックボードなど、新しいモビリティのレンタルがスマホで手軽に利用できたりと活用が進んでいるが、今年4月に可決された改正道路交通法が施行されれば、こうした個人所有のいわゆる「特定小型原動機付自転車」が市内を走ることも想定されます。</p> <p>市民にとって、そうしたモビリティが突如現れた黒船とならないように、ペDESTリアンデッキを始めとした市内通行空間での交通ルールの周知など、警察とも連携した取り組みが今から必要と思うが対策を伺う。</p>
<p>(7) 2025年に実施される日本国際博覧会・大阪万博では世界中の先端科学技術を一挙に集め少し先の未来を私たちに見せてくれる場となるでしょう。</p> <p>その中には「空飛ぶクルマ」などもお披露目されるのではと期待されております。そのような全く新しいモビリティをはじめとした未来の世界をぜひ多摩市の子ども達にも肌で体験してもらいたいと思いますが、事前学習から始まり修学旅行や移動教室として大阪万博に足を運ぶ機会を作れないか、担当の所感を伺う。</p>

